

# 日医FAX ニュース



日医FAXニュース  
編集・発行：日本医師会 (03-3946-2121)

## ■ かかりつけ医研修、修了者1万5490人に

— 日 医 —

日医は9月21日、日医かかりつけ医機能研修制度の2025年度応用研修会を日医会館で開催した。松本会長は冒頭の挨拶で、研修制度の修了者数が昨年度までに延べ1万5490人、応用研修会の受講者数が延べ7万2244人に上がったと説明。「全国の医師が、かかりつけ医として患者・国民を支えたいという熱意の下、しっかりと努力をしていることの証しだ」と述べた。

医療機関に対しては、自らの機能を伸ばすとともに他の医療機関と連携し、地域におけるかかりつけ機能を面として支える機能を発揮することを期待。日医として、かかりつけ医が患者や地域の医療・介護・福祉に貢献し続けられるよう、研修制度のさらなる充実を図る考えを示した。

研修会では、関西労災病院長の竹原徹郎氏が肝臓病の診断と治療について解説した。かかりつけ医に、日常診療で注意してもらいたいポイントとして、薬物・サプリメントによる肝障害や、ウイルス肝炎の検査結果を見落

とさないことなどを挙げた。また、「生活習慣に伴う肝疾患が増加している」と説明し、適切なタイミングで専門医へ紹介することを求めた。

新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター長の成田一衛氏は、かかりつけ医における慢性腎臓病（CKD）診断のポイントについて解説した。「CKDは、腎臓病対策を進めるために地域住民や行政、かかりつけ医などと問題意識を共有するための概念だ」と指摘。早期発見・介入、多職種連携、栄養・生活習慣の修正、専門医による原疾患の治療強化により、重症化予防や腎不全の抑制を図ることが重要だとした。 【メディファクス】

## ■ 医学生などに向けた動画を制作

— 日 医 —

日医はこのほど、動画「進路に悩むあなたへ 先輩医師に聞きました医学生のためのキャリアインタビュー」を制作し、9月19日に公式YouTubeチャンネルで公開しました。

本動画は、将来、医師としてどのような道に進めばよいのか、迷っている医学生の皆さんに、先輩の医師達がなぜ今の道を選んだのか、その理由などを語ってもらうことで、少しでも進路選択の参考にして頂ければとの思いから制作したもので、第1段となる今回の動画には松本吉郎会長に登場してもらっています。

動画の中で松本会長は、

- ・ どうして今の診療科を選んだのか
- ・ 形成外科のこういったところに魅力を感じたのか

- ・皮膚科も学び始めたきっかけ
- ・開業しようと思ったのはいつ頃か
- ・医師会活動を始めたのはいつで、どのようなことがきっかけだったのか
- ・会長としてどんな仕事をしているのか
- ・診療はもうしていないのか
- ・医師として大切にしていること
- ・医学生や若手医師にとって医師会はどんな存在と思うか

などの質問に回答。最後には医学生に向けたメッセージとして、「医師になろうとした気持ちを忘れないで欲しい」と呼び掛けています。

動画のタイトルは「医学生のための」となっていますが、研修医の皆さんや今後医師を目指す方達にとっても参考となる動画となっていますので、ぜひ、多くの方達にご覧頂ければ幸いです。

なお、日医では既述のとおり、今回の動画をシリーズ化し、今後もさまざまな先輩医師に登場して頂く予定としていますので、楽しみにして頂ければと思います。

◆進路に悩むあなたへ 先輩医師に聞きました 医学生のためのキャリアインタビュー／日本医師会会長 松本吉郎（公益社団法人 日本医師会公式YouTubeチャンネル）

<https://www.youtube.com/watch?v=r02o1h4xa0I>

◆問い合わせ先 日本医師会広報課

TEL : 03-3946-2121 (代)

【「日医君」だより】

## ■ ワクチン「効率的な使用を」

— 厚労省 —

厚生労働省は9月24日までに、季節性イン

フルエンザワクチンと新型コロナワクチンの安定供給に向け、医療機関において効率的に使用することなどを求める通知を発出した。

今季の供給量は、インフルワクチンが約5293万回分、コロナワクチンが約909万回分を見込んでいる。いずれも最近の使用量を上回っているが、「例年行っている効率的な使用が前提」としている。

その上で、接種希望者から申し込みがあった段階で必要に応じて予約注文することが望ましいとし、必要以上に早期・多量の納入を求める予約注文を慎むよう、医療機関に要請した。

通知は19日付で、題名は「季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの供給等について」。

【メディファクス】

## ■ RSウイルス1.66、3週連続で増

— 9月1～7日 —

国立健康危機管理研究機構（JIHS）は9月22日、感染症週報の第36週（9月1～7日）を公表した。RSウイルス感染症の定点当たり報告数が1.66と3週連続で増え、過去5年間の同時期よりも「やや多い」水準になった。都道府県別で見ると最多の福岡（4.76）に、愛媛（3.65）、山形（3.54）が続く。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は1.84で、2週連続で減少した。過去5年の同時期平均に比べて「かなり多い」状況は継続している。

【メディファクス】

— 【お知らせ】 —

本日の日医FAXニュースは2ページでの配信となります。ご了承ください。

日本医師会広報課